

① 補助金を活用して、地震から命を守ろう!

4月17日に発生した豊後水道を震源とする地震により高知県で観測史上初となる震度6弱の強い揺れを記録しました。また南国市でも震度3の揺れが発生し、高知県西部では骨折などの人的被害や家屋の一部損壊が確認されています。

南海トラフ地震が発生した場合、南国市では震度6強～7の強い揺れが想定されています。これを機会に地震への備えを再確認し、住宅の耐震改修や家具をしっかりと固定しましょう。

①住宅の耐震改修

大きな地震で住宅が倒壊しないように耐震改修・補強にかかった費用への補助

- 対象／昭和56年5月31日以前に建築された住宅
- 上限額
 - 耐震診断 **無料**
 - 耐震設計 **32.4万円**まで
 - 耐震改修 **165万円**まで(市内工務店)
160万円まで(その他工務店)



②老朽住宅の除却

老朽化した住宅(空き家)の除却工事にかかった費用への補助

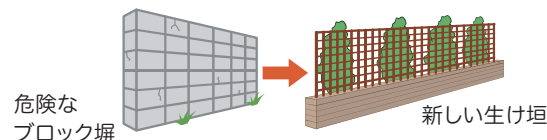
- 対象／昭和56年5月31日以前に建築された木造の住宅(空き家)
- 上限額 **92.5万円**まで
(除却工事費の80%)
- 申請期間 令和6年7月31日(火)まで



③ブロック塀の安全対策

ブロック塀の撤去や新しい生け垣・フェンスへの改修にかかった費用への補助

- 上限額／(どちらか一方のみ)
 - ・撤去のみ **40万円**まで
 - ・撤去後、フェンスなどを施工する場合 **20.5万円**まで



他にも要件がありますので、詳しくはお問い合わせください。

■問い合わせ／①②③住宅課 ☎088-880-6558 ④危機管理課 ☎088-880-6575

居安思危 ー 安きに居て危うきを思う ー



「一言でいうと悲惨です」

能登半島地震 職員派遣報告 File 2



崩れ落ちた神社の鳥居と狛犬



河川護岸崩壊



倒れた7階建て五島屋ビル



玄関前が陥没した輪島市役所庁舎

土砂崩れによる蔵と家屋の倒壊

地震に備えて何ができるか
今回、被災地を見てきて、建物の倒壊などから我が身を守らなければならぬ重要性を感じました。耐震設計になっていない住宅であれば、耐震診断・耐震工事を行い、また家具の固定を行うこと。さらに、住宅の裏側が高い崖であれば、対策工事を行うなどです。まず、地震による家屋の倒壊や土砂埋没によって、自分が家や家具に挟まれて脱出できなければ、その後の火事や津波から逃げるチャンスさえないので。

1月1日の地震は、大変恐ろしい出来事であったと思いますが、日常を取り戻そうと、今できることを一生懸命にしています。地震災害による被害を減らすにはどうしたらいいか。今回の派遣は、私たち自治体職員に永遠なる課題を突き付けられたように感じました。

業務の担当箇所は、輪島市内の三井地区という農村地域でした。調査で回っている時に、金沢市内の避難所に避難し、たまたま家に帰って来られたという方や、近所の家に集団で避難している方々と話す機会がありました。特に悲壮感はありませんでしたが、電気の復旧が半月～1か月ほどかかり、いまだ水道の復旧がなく、断水状態が続いており、普段通りの入浴や洗濯ができないなど、日常生活をなかなか取り戻せないことの疲労感があつたように感じられました。

輪島市役所の建物自体は、大きな被害はなさそうでしたが、入口部分の舗装やインターロッキングが陥没していました。また、輪島市職員とは接する機会がなかったですが聞いたところによると「被災後、一度も家に帰っていない職員がいる」とのことでした。

私が見てきた輪島市内の様子は、一言で言うと「悲惨」です。朝市や倒れたビル以外にも、山も川も道も建物も何かしら被害を受けていました。山は所々崩壊し、川の護岸も崩壊している箇所がありました。道路は、舗装が割れ、橋に架かる箇所でも20～40cmの段差が発生しており、倒壊している建物が至る所にある状態でした。私が現地に行った時期では、道路に堆積していたと思われる土砂の撤去や、段差の解消など、応急的に工事がされており、震災直後よりは人の移動や物流が徐々に回復している様子でした。

2月6日～14日に、災害派遣として、石川県輪島市へ行ってきました。総務省応援派遣室を通じての応援要請に基づき、高知県職員と県内市町職員と共に「罹災証明書発行のための住家被害認定調査業務」に従事してきました。

派遣職員 農地整備課 米持 勝

